

第5回河南町地域公共交通検討会議 会議録（議事要旨）

- 日 時 / 平成26年7月2日（水）午後1時30分～午後3時40分
- 場 所 / 河南町役場4階 大会議室南
- 出席者 / 委員10名／欠席委員3名の代理出席者1名
事務局7名（うち記録1名）、NPO地域デザイン研究会2名
傍聴者6名
- 配布資料
 - ・ 議事次第
 - ・ 委員名簿
 - ・ 第4回会議録（議事要旨）
 - ・ 検討会議資料
 - ・ 平成25年度事業報告書
 - ・ 平成25年度決算報告書
 - ・ 平成26年度事業計画（案）
 - ・ 平成26年度予算（案）
- 議事次第
 1. 開会
 2. 挨拶
 3. 前回検討会議の振り返り
 4. 報告事項
 - ・ 河南町地域公共交通基本計画素案住民報告会について
 - ・ 平成25年度事業報告・決算報告について
 - ・ 平成26年度業務委託契約の締結について
 5. 協議事項
 - (1) 平成26年度事業計画（案）について
 - (2) 平成26年度予算（案）について
 - (3) 住民アンケート調査結果の概要について
 - (4) 河南町地域公共交通基本計画の今後の方針について
 6. その他
 7. 閉会
- 報告事項
 - 河南町地域公共交通基本計画素案住民報告会について
 - ・ 参加人数96名
 - ・ 意見及び要望
 - ① 通勤、通学時間帯について考えてほしい。
 - ② 大伴や寺田、寛弘寺、神山ルートあたりでもう1便欲しい。
 - ③ やまなみバスの運行ルートはカバーしてほしい。

- ④やまなみバスの経費について、検討していただきたい。
- ⑤青崩地区などでは、デマンドの運行についても早い段階で考えていただきたい。
- ⑥新興住宅と旧村区とで区別なしに同じような立場からスタートしてほしい。
- ⑦さくら坂のほうの住宅の方々の中では、スーパーが住宅内にできていないといった部分をカバーできる交通を考えていただきたい。

■平成25年度河南町地域公共交通検討会議事業報告について

- ・会議は7月26日、10月23日、1月16日、26年の3月19日の計4回開催。
- ・第4回では、基本計画素案を策定。

■平成25年度河南町地域公共交通検討会議決算報告について

- ・歳入310万2円
(国庫補助300万円、町補助10万円、貯金利息2円)
- ・歳出308万5,105円
(運営費5,400円、事務費6万757円、通信費・郵便料1万5,000円、備品購入費3,948円、事業費300万円)

■平成26年度業務委託契約の締結について

- ・昨年度、本基本計画素案づくり等の業務を委託した総合調査設計株式会社様と引続き契約。
- ・契約金額は324万円
- ・契約期間は平成26年4月11日から平成26年10月31日

○ 協議事項

■平成26年度事業計画（案）について

- ・5月18日に開催した地域公共交通報告会
- ・既に収集している住民アンケートの実施
- ・第5回検討会議の開催（本会議）
- ・第6回検討会議の開催（9月下旬予定）（基本計画（案）の策定）

■平成26年度予算（案）について

- ・歳入430万円
(町補助金)
- ・歳出430万円
(運営費6,000円、事務費7万9,000円、役務費1万5,000円、事業費27万8,000円、委託料、392万2,000円)

■住民アンケート調査結果の概要について

- ・調査対象は全住民（15歳以上）で全戸配布。
- ・回収状況について、配布世帯は5,204世帯（15歳以上人口が1万4,099人）に配布し、1,525世帯（2,870人）から回答があり、回収率は29.3%、回答率は20.4%。
- ・北部・南部ルートでよいという回答は82.4%。
- ・運行時間帯提示した時間帯でよいという回答が67.6%あったが、7時台も必要、20時台も必要という意見もあった。
- ・循環バスでカバーされない区域についての交通手段として、デマンドを提示しており、導入すべきであるという意見が90%。
- ・乗り継ぎの場所について、適切であるという回答が84.1%。

■河南町地域公共交通基本計画の今後の方針について

- ・回収率20%これは走り出したら利用してくれる人たちの数字だと思う。
- ・住民の皆さん方の問題として取り扱わないといけないのに、回収率が20%では、行政任せの計画を眺めているというふうにはしか見えない。
- ・実際、本当に住民たちがついてきているのか。地域公共交通についての認識というものをもっと浸透させなければならない。
- ・今後は住民の危機意識を高めることと、公共交通というものの理念、意味というものをみんなで共有するという考えでなければいけない。
- ・基本計画素案の中で基本方針ということで示されたように、最適な公共交通サービスを住民、企業と協働・連携のもとにやっていき、住民などが主体になって公共交通を維持していく。行政主体でない有償によるバス運行を住民パワーの盛り上がりの中でやっていく。それを住民の方々も我が町のバスとして守り育てていって、持続可能なものにしていく。そういうことから言うと、関心が薄いことについては、非常にゆゆしき問題。
- ・アンケートでは運行ルートの設定について82.4%の人が丸だとしているが、5月18日に行った住民報告会での意見とは大きなギャップがある。
- ・我々の材料の提供が住民の皆さんにまだまだ不十分であったのでは。
- ・回答率が低いというのが、十分浸透していないなという率直な印象と、あと町民の方々自分たちのことを考える、交通を考えるという意識にまだつながっていない。
- ・撤退ルールを最初から明らかにして、収益と収入のバランスがこうなったら撤退し、それは町民の皆さんで支えるということを最初に明らかにしてやっていくというのの一つ。
- ・試行運転して乗車率が悪かったら廃止にするなど、そういった決めごとでいかないといけない。例えば、ここで回答率が低かったから、やめようというような議論ではな

い。

- もっと住民の人、また住んでいなくても会社だけある人にも協力してもらって、金剛バスの利用を上げていくということも必要。
 - 単に今の場所から富田林の駅へ行くだけの交通機関ということになったら、それは点と点を結ぶだけで、特に発展性もない。
 - 本来なら町の総合計画なり何なりというもので土地利用のあり方とか、それから活性化の方向を見つけるとか、そういうことをあわせて交通と一緒に考えるということが必要。
 - 意識を高めるような方向に何か動く。(ワークショップなど)
- 意識は低いかもしれないが、意見が出てきているので、これに沿った形で、どのように基本計画素案で書かれた内容を見直していくかというのを引き続きやっていくべき。
- 今後の進め方、意識の醸成、また、計画の具体化について事務局の中で検討させていただいて、その方向が決まれば委員の皆さん方にお知らせする。

以上